

神秘学ポエジー 風遊戯
photopos
116

【神秘学ポエジー～風遊戯 第232集】 photo ヴァージョン

photopos 2876-2900

《2022.7.24～2022.8.17》

神秘学遊戯団



この気持ちは
伝わるだろうか

あなたへと
どんなかたちで
伝わるのか

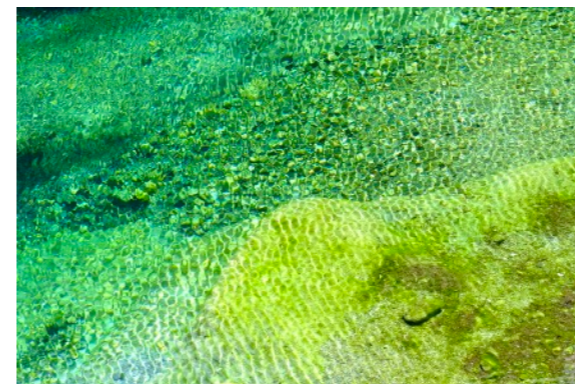
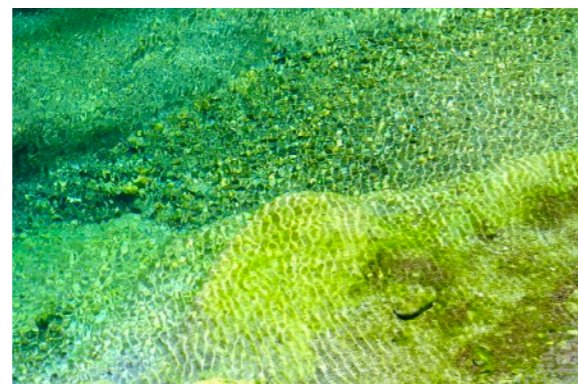
わからないまま
ことばは
あなたへと伝えられる

ことばには
ちからがあるのか
それとも
じゃまになるだけなのか

気持ちを
じぶんのなかで
ことばにしてみても
それはじぶんにさえ
つたえられなかったりもする

そのうち
じぶんの気持ちさえ
なにを伝えたいのかも
わからなくなり

ことばもまた
かたちをなくして
さまよいはじめる





問いはあるが
答えのための
問いではない

問いから
はじまる
問いへ

事実はあるが
理屈のための
事実ではない

事実から
はじまる
事実へ

言葉はあるが
論理のための
言葉ではない

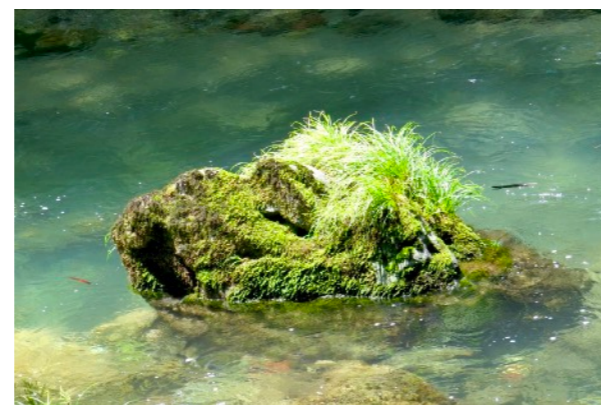
言葉から
はじまる
言葉へ

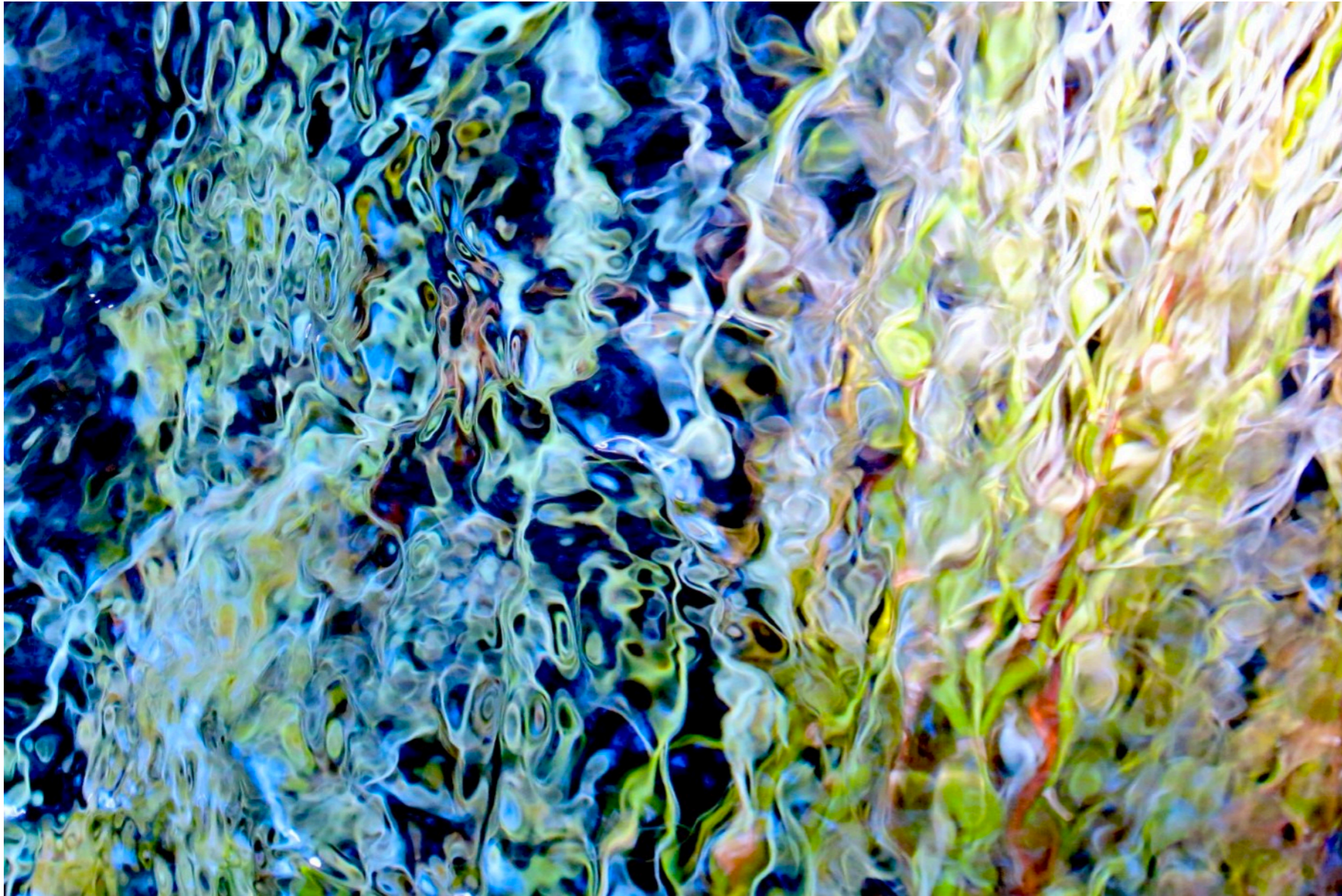
祝祭はあるが
儀礼のための
祝祭ではない

祝祭から
はじまる
祝祭へ

祈りはあるが
祈願のための
祈りではない

祈りから
はじまる
祈りへ





じぶんを
笑えるとき
世界はひろがる

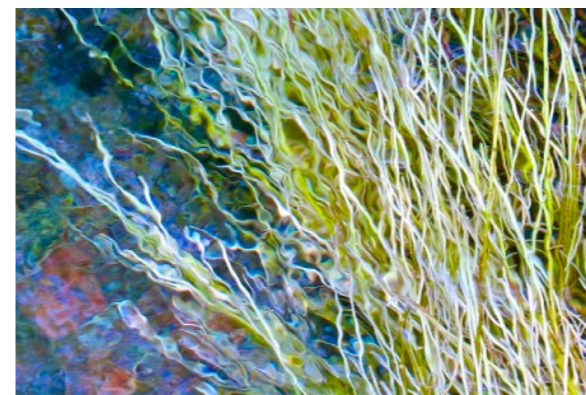
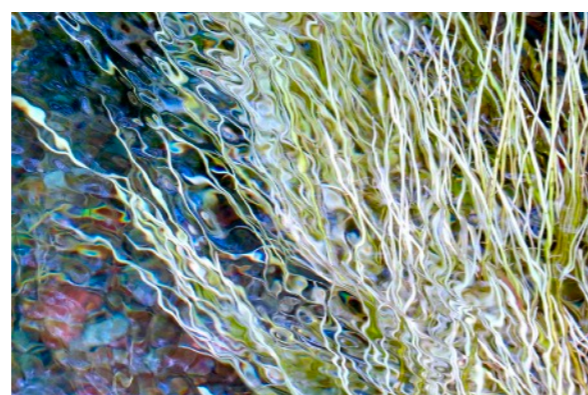
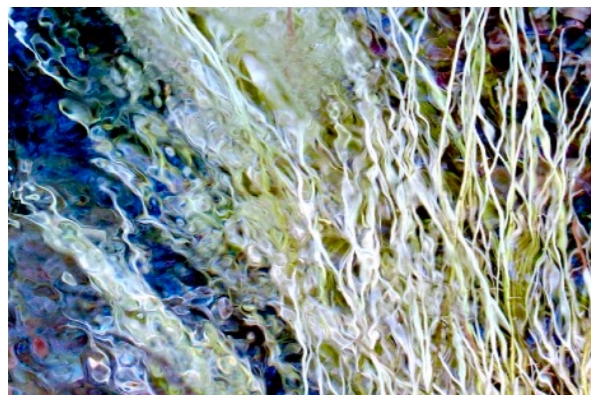
愚かさは
知恵の証になり
過ちは
新しい道となる

ひとを
許すとき
世界は扉をひらく

解放は
感情を高めへと誘い
勇気は
未知への導きとなる

矛盾が
超えられるとき
世界は次元をこえる

ことばは
語りえないものを語り
からだは
見えない秘密を踊る





闇のなかでは
見えないものが
光のなかでは
見えてくるけれど

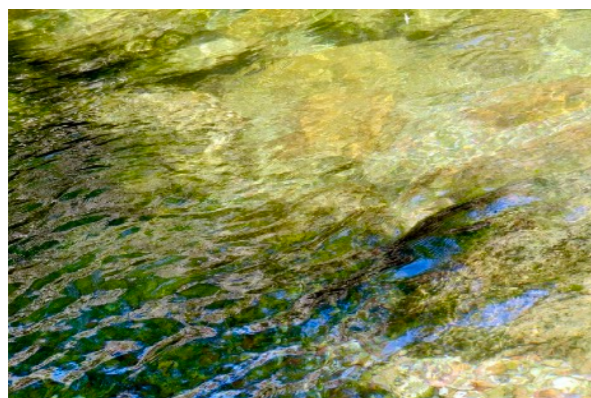
光のなかでは
見えないものが
闇のなかで
ふれることで
あらわれてくるものがある

知らないでいると
わからないものが
知ること
わかってくるけれど

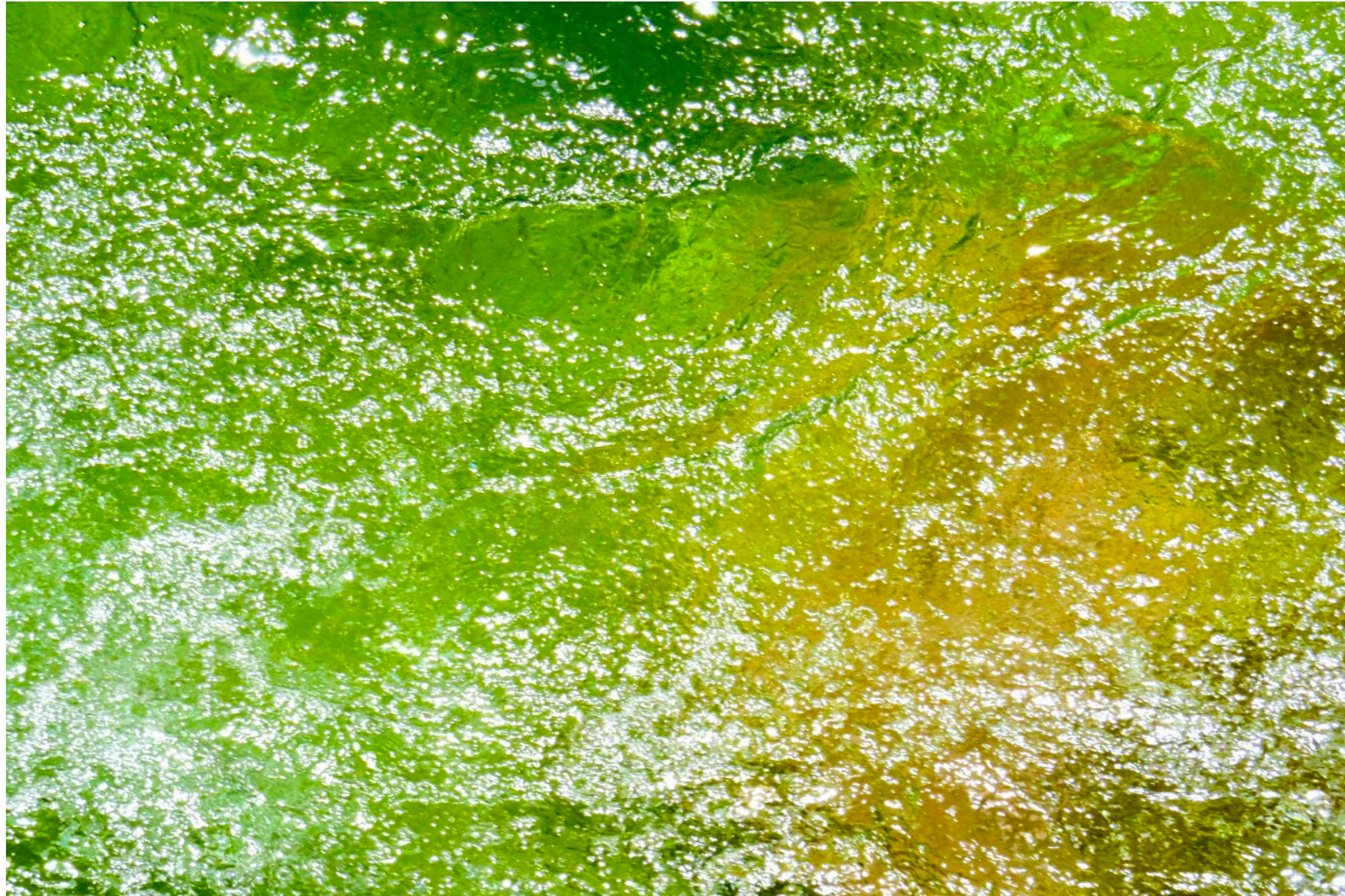
知ることでは
わからないものが
知らないことに
気づくことで
あらわれてくるものがある

言葉にならないと
意味にならないものが
言葉にできれば
意味づけされてくるけれど

言葉にすることでは
意味にならないものが
沈黙することで
あらわれてくるものがある



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて



変わらないと思っても
変わってゆく

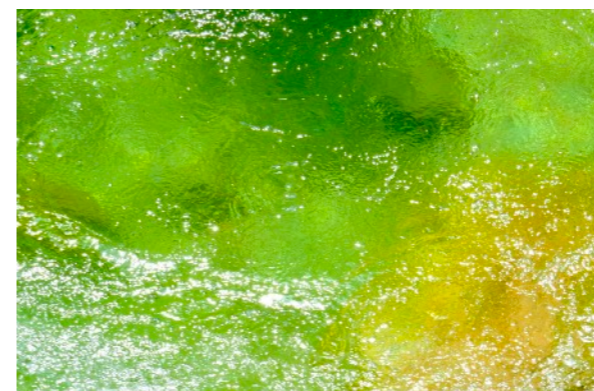
なにが変わってゆくのか
じぶんではわからないまま

ときに流され
気がつけば
知らない場所にいる
じぶんを見つける

変わってゆくと思っても
変わらないでいる

なにが変わらないのか
じぶんではわからないまま

はるかな道をゆき
気がつけば
はじめにいた場所にいる
じぶんを見つける





なくしてしまった
たいせつなものが
わたしのなかで
いつまでも
なくなっていない

なくなったはずの
すがたのないものなのに
もうとりもどせないものなのに
いつまでも
なくなっていない

わすれてしまった
たいせつなことばが
わたしのなかのどこかで
いつまでも
なくなっていない

わすれてしまったはずの
おもいだせないことばなのに
どうしてもおもいだせないことばなのに
いつまでも
なくなっていない





違う
のではなく
異なる

違うは
正しくないこと
でもあるが
異なるには
正しさが
求められはしないから

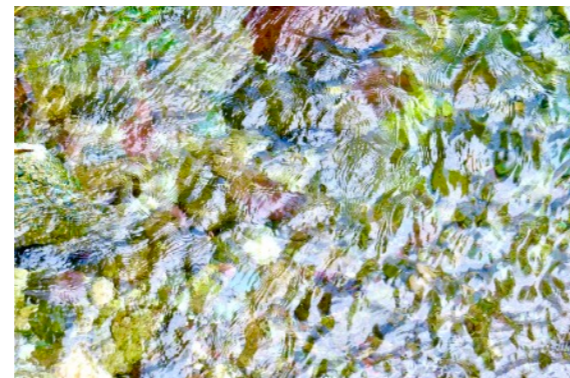
違うものどうしは
和することがむずかしいが
異なるものどうしは
和することへとひらかれている

和することは
同じになることではない
同じとき
和することはできない

正しいものと
正しくないものがあるとき
正しいものは正しくないものを
否定してしまうことになる

異なるものが
和するとき
異なるものどうしは
互いに変容していくことができる

わたしとあなたを
あらたに創造してゆく
錬金術のように



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて



なぜ世界があるのか
その問いは
いまうまれつつある
世界において
問われなければならない

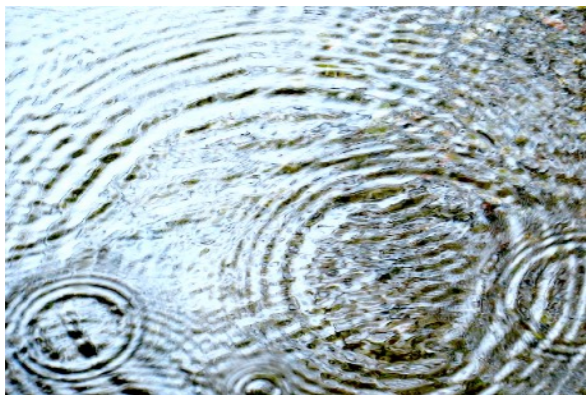
世界が
ある
のではなく
世界は
世界に
なりつつけているからだ

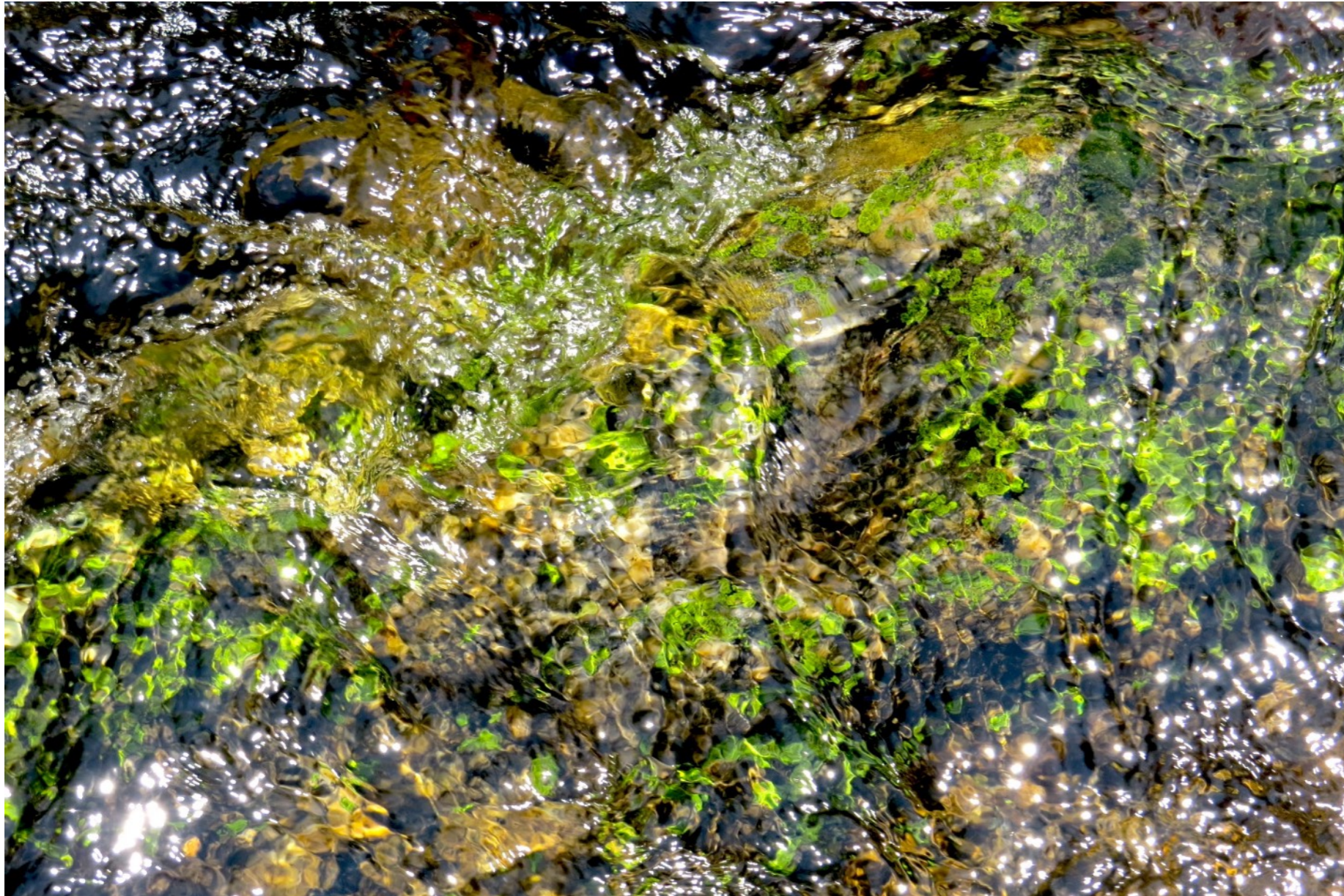
世界は踊りながら
変わりつつけている
ひとときも
世界になることを止めることなく

なぜわたしがあるのか
その問いは
いまうまれつつある
わたしにおいて
問われなければならない

わたしが
ある
のではなく
わたしは
わたしに
なりつつけているからだ

わたしは詠いながら
変わりつつけている
ひとときも
わたしになることを止めることなく





人間は
人間であることから
逃れることはできない

人間が
感じ
考え
行ったことは
すべて
人間のなかに
消えずに残っている

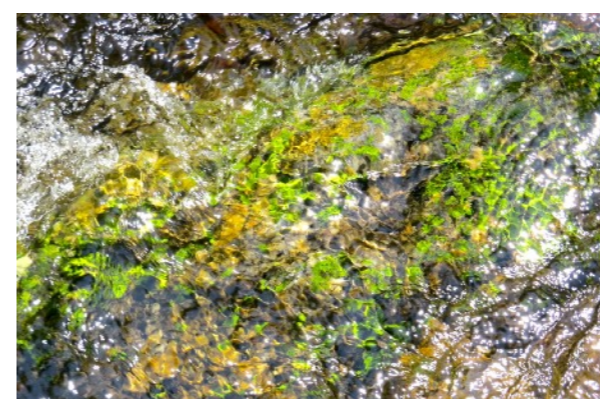
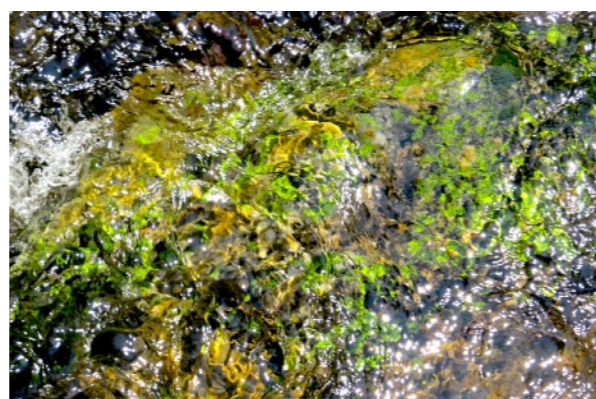
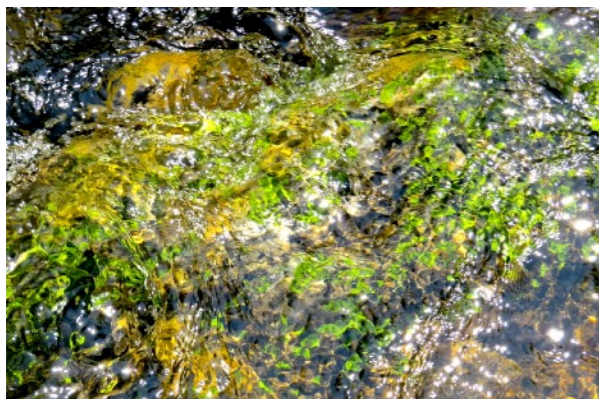
綺麗もあれば
汚いもあり
善きこともあれば
悪しきこともあり
賢きこともあれば
愚かなこともあり
希望もあれば
絶望もある

そんなすべてから
人間であるわたしは
逃れることはできない

わたしは
天使ではないからだ

けれど天使もまた
天使であることから
逃れることはできずにいるはずだ

わたしが
わたしであることから
逃れることはできないように



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて



信じる者は
なにを信じているのか
疑うこともせず
あるいは疑いながらも

信じない者は
信じる者を不信に思い
じぶんは信じないといいつつ
どこかでなにかを信じながら

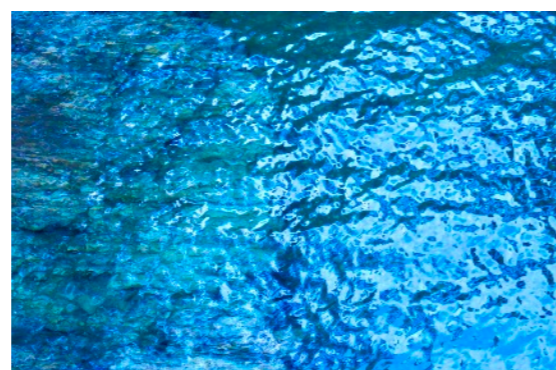
信じることの
強さと閉塞と
信じないことの
冒険と頑なさと

知らない者は
知ろうとしないのか
知ることを求めもせず
あるいは求めることに疲れ

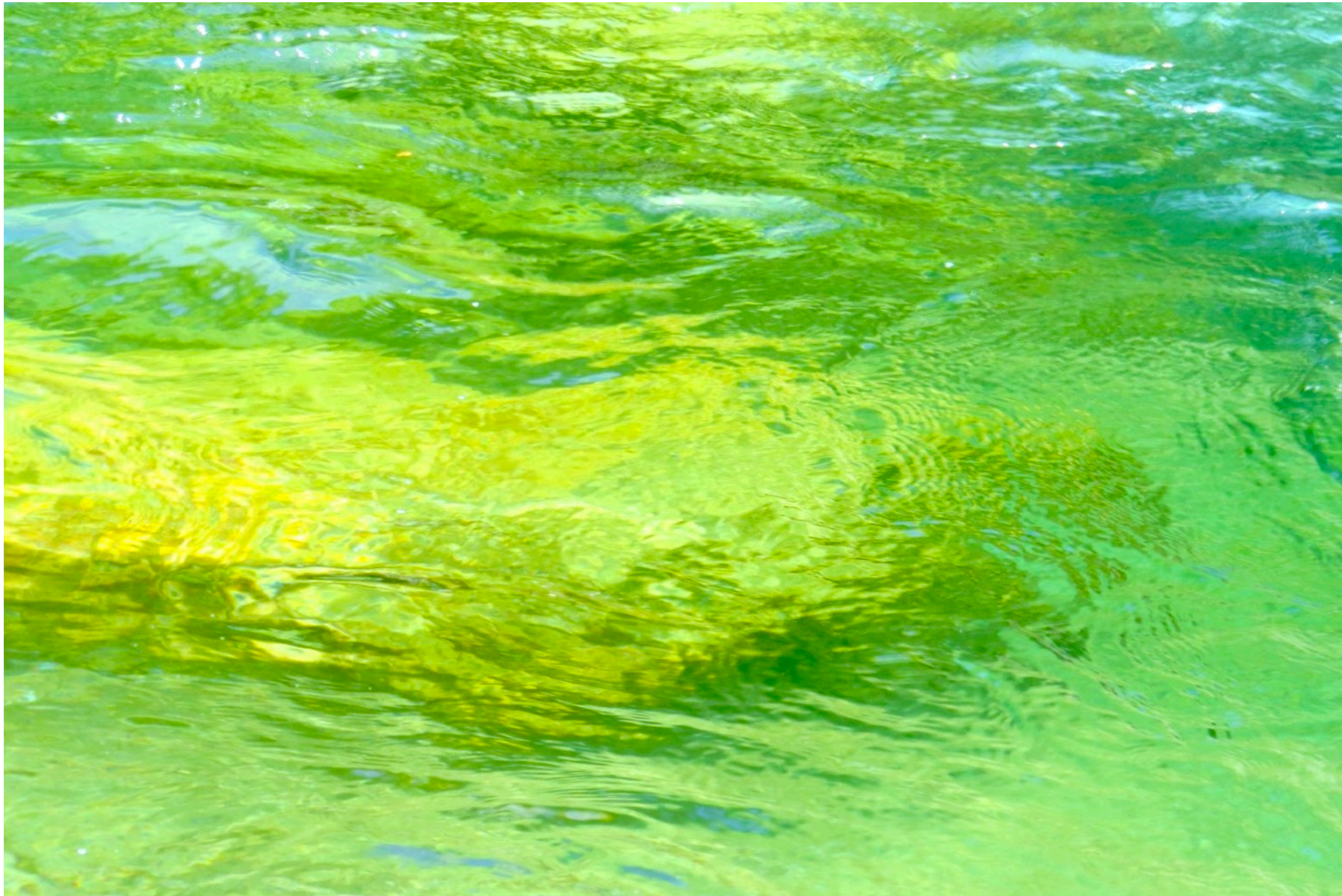
知る者は
なにを知っているのか
知ることを疑いもせず
あるいは疑いながらも

知らないことを知る者は
なにを知り
なにを知らないのか
知らないことを
知ることはできるのか
知ることに迷いながらも

知らないことの
自足と諦めと
知ることの
欲望と驕りと
知らないことを知ることの
勇気と迷路と



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて



はじめ
わたしと世界は
ひとつだった

わたしは
わたしになろうと
世界から離れた
世界を見るためだ

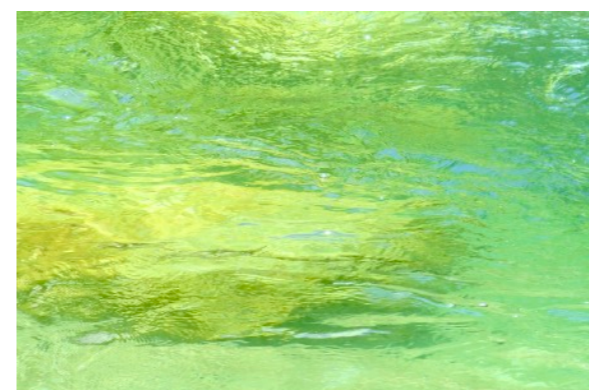
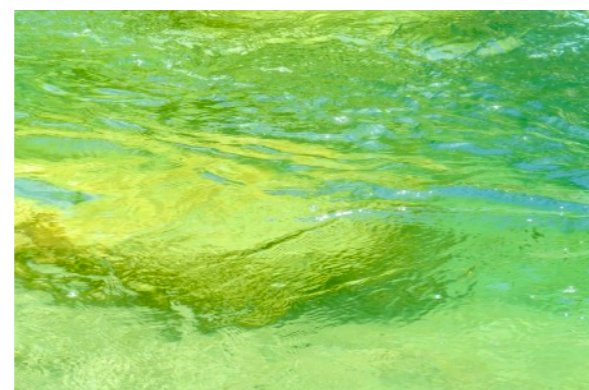
わたしは
わたしになろうと
あなたから離れた
あなたを見るためだ

わたしは
わたしになろうと
からだから離れた
からだを見るためだ

わたしは
わたしになろうと
ここから離れた
ここを見るためだ

そうして
わたしは
わたしになろうと
わたしを見失っていった

見失ったわたしを
もういちど取り戻すために
わたしは
わたしのところに
再会する旅にでる





なにが
わたしを
そうさせる

わたしは
だあれ
どこから
きたの

わたしの
ことばは
だれの
ことば

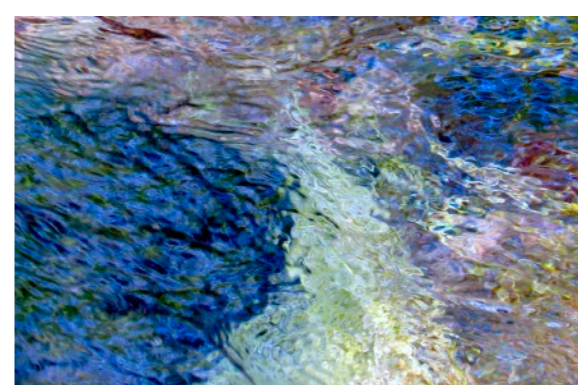
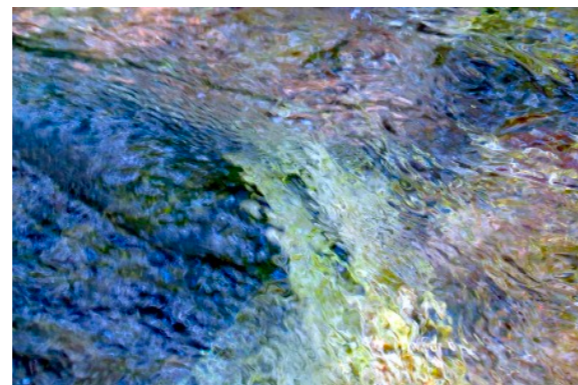
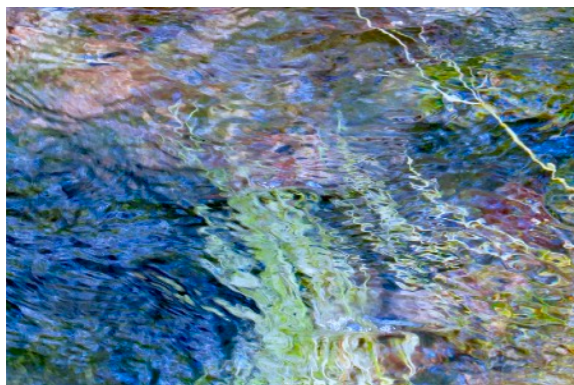
わたしの
こころは
だれの
こころ

わたしの
からだは
だれの
からだ

なにが
わたしを
そうさせる

わたしは
わたし

けれど
わたしは
だあれ
どこから
きたの



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて



こころは
見えないから
わたしは
あなたのこころを
かたちにして見ようとする

そしてそれは
ときにうれしく
ときに悲しく
激しくゆがんで見えるときもある

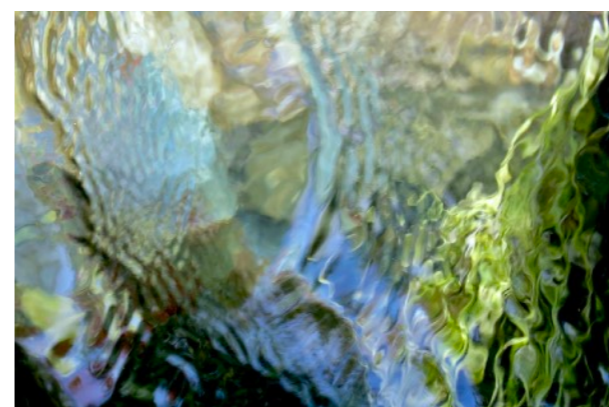
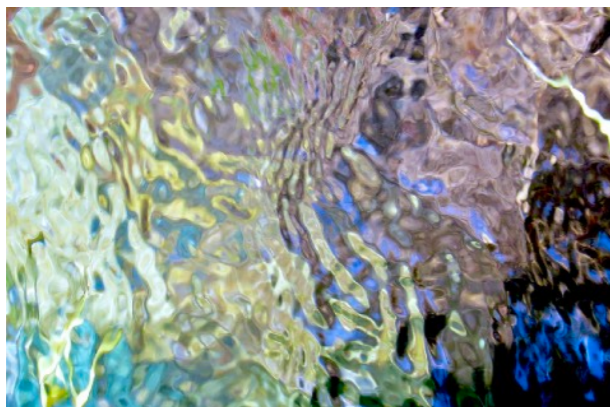
わたしのこころも
あなたには見えはしないから
あなたは
わたしのこころを
かたちにして見ようとするだろう

そしてそれもまた
ときにうれしく
ときに悲しいだろう
そしてまた
激しくゆがんで見えたりもするだろう

そのかたちを
ことばにしようとするとき
ことばのほんとうもまた
見えないから
いろんなかたちにして
見ようとする

わたしも
そして
あなたも

その重なりと
思い込みと
すれ違いとを
ともに生きてゆきながら





哲学なるものを学ぶことは
哲学することではない

知識はすでに
知恵ではなくなっているように

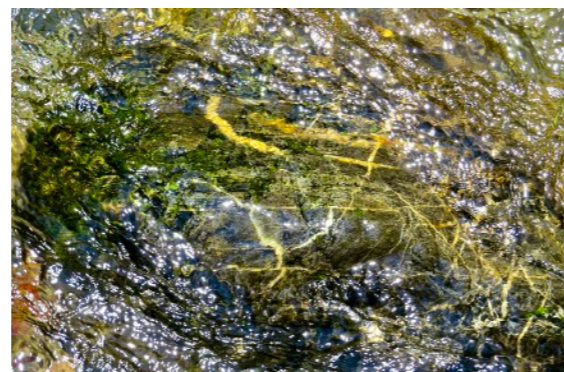
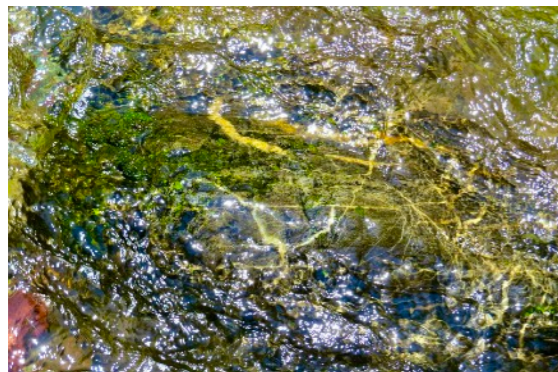
けれどひとは
名指さなければ
それを解さない

そして
名指したとき
それはすでに
それではなくなっている

時間とは何か
それに答えようとして
時間が何なのかわからなくなるように

わたしがじぶんを
わたしといったとき
わたしはすでに
わたしではなくなっているように

釈尊が黙って華を拈り
摩訶迦葉が微笑した
そんなしかたでしか伝わらないことを
哲学は無謀にも
試みようとしているのかもしれない
語り得ないことを
沈黙することをよしとしないように





偶然は
ただやっではこない
偶然とは
出会いである

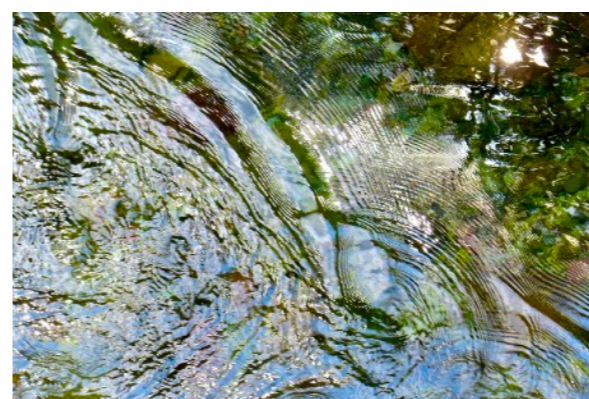
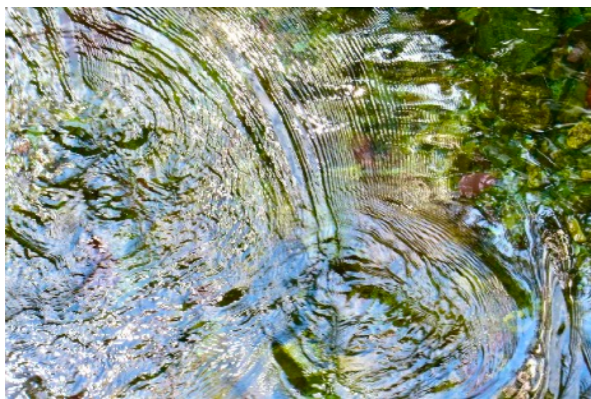
その出会いを
生みだすためには
そこに
私がいなければならない

偶然を
その深みにおいて
受けとめるとき
私は運命を生きることができる

私はみずから
命を運ぶ者として
偶然と出会うのだ

あなたとの出会いも
そんな偶然から生まれる

わたしとあなたは
たがいに命を運び
永遠の世界を巡りつづける





※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

時代を超える
臨界にあるもの

時代の権威は
それを異端とする

権威はつねに
過去を向き
既存の範疇に
収まるかたちだけを
正統とするからだ

異端は
既存の箱には入らない
それ故に
異端と称され

臨界にあるものに
ひとは不穩の目を向け
既存のことばで
定義できないものを排する

異端が
異端であることを目的としたとき
異端はただの好事にすぎないが
異端としてしか
ひらきえない扉がある

けれどその扉をひらく異端も
やがて権威となり
あらたな異端を排そうとするだろう

みずからの内なる権威と異端を
つねに注視しておくことだ
そこに時代を超える臨界がある



いまどこを
歩いているのか
わからないとしても

それでも
なにをめざして
歩いているのか
それだけは
忘れないでいる

たしかに歩くことだけは怠りなく
けれどいま歩いている場所だけに
とらわれることなく

迷路のなかにあるときも
迷路の意味を探り
遠回りするときも
遠回りの意味を探り
ときには道を引き返し
引き返すことの意味を探り

いつもいまはじめて
歩き始めたばかりのように
歩くことそのものが
いまはじまったばかりのように

それでいていつも
いま歩いている場所が
めざすものと
たしかにたしかに
呼応していることを感じながら



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

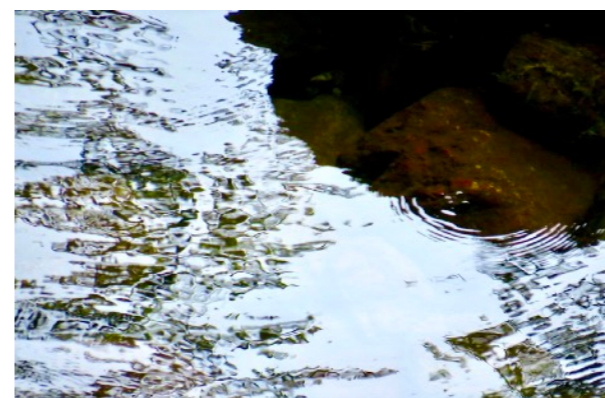
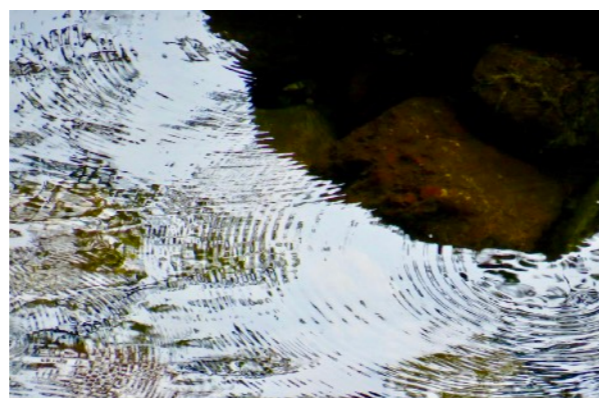
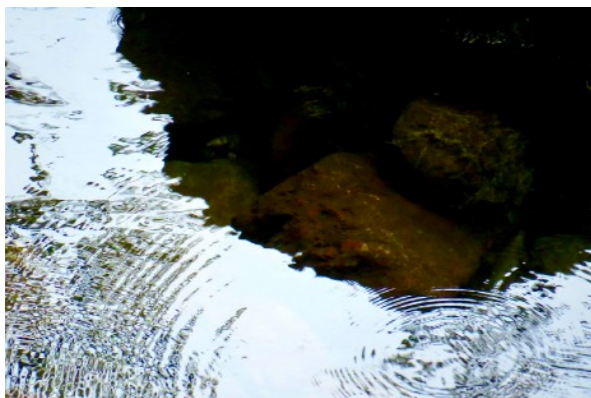


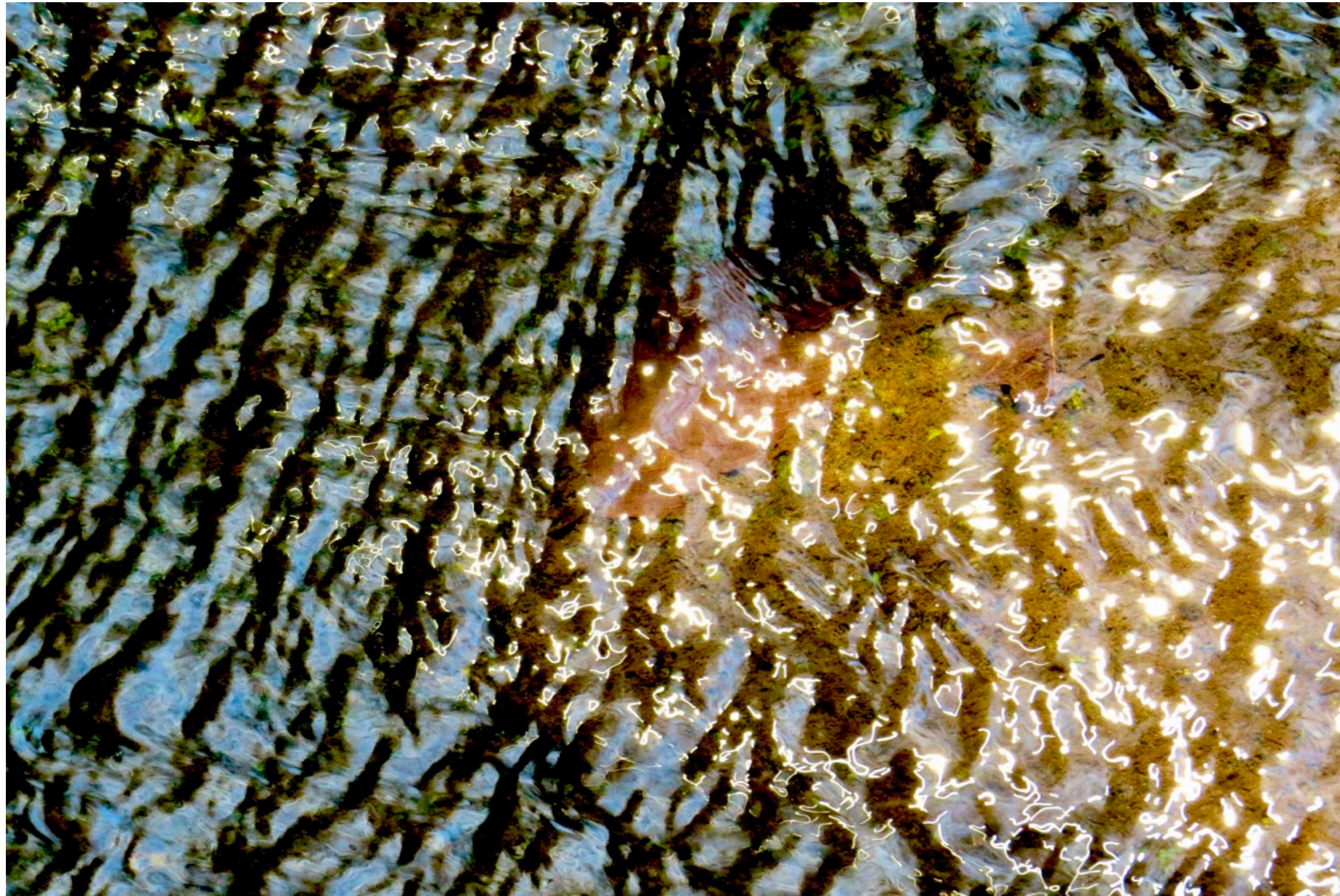
生きる
とき
こころは
からだの
痛みと
ともにあるように

わかる
とき
こころは
わけられた
痛みと
ともにある

痛みとは
わたしが
生きようとし
わかろうとする
そのかけがえのない
証なのかもしれない

それは
見えない聖痕のように
生を超えて働きつづけ
わたしの魂を導く光となる





ほんとうの眼があるならば
見る力を育て
見えないものをさえ
見る力を得ることだ

感覚は
ひとつの感覚を超えた
共通感覚へとつながっているから
すべての感覚の深みから
世界を感覚する
秘密の力を育てるのだ

ほんとうの手があるならば
つくる力を育て
つukれないものをさえ
つくる力を得ることだ

手は
ものをつくることを超え
みずからをもつくりだし
世界をもつくりだすから
そんな創造する力の深みにある
秘密の力を育てるのだ

ほんとうの心があるならば
考える力を育て
考えられないものさえ
考える力を得ることだ

心は
考えることを超え
考えるじぶんをさえ考えるから
我が我であることの深みで
我が生み出されている
秘密へとみずからを導くのだ





瞬間
といったとたん
瞬間は
もうその瞬間ではないように

言葉は
言葉になったとたん
じぶんを裏切ってしまうてはいないか

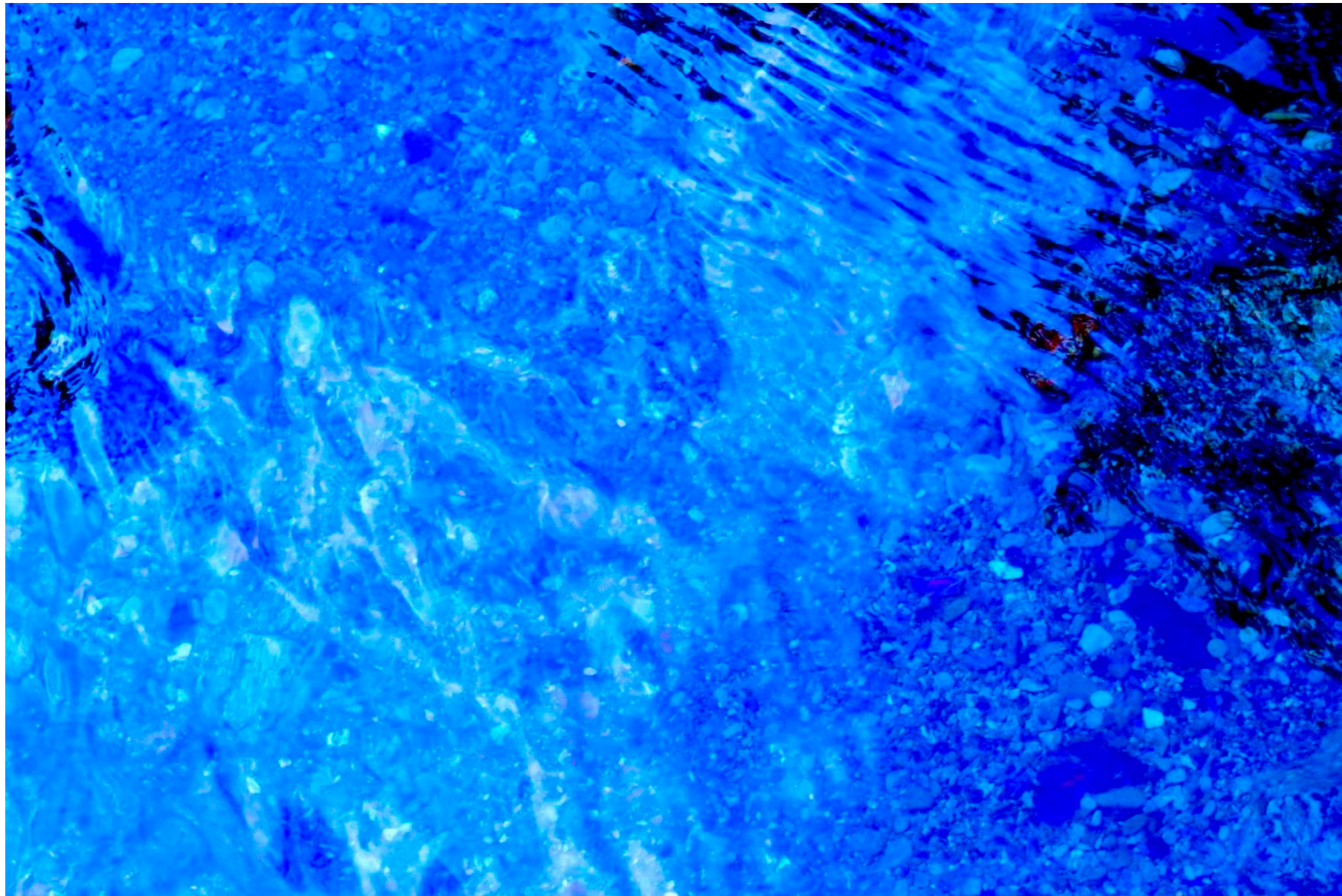
それでも
たとえ沈黙のなかでも
言葉は言葉であることをやめないだろう
矛盾を超えたものを指し示すために

私
といったとたん
私は
もうその私ではないように

私は
私であるといったとたん
私を裏切ってしまうてはいないか

それでも
たとえペルソナとしてでも
私は私であることをやめないだろう
矛盾をこえて私であるために





その先は
見えない

うたかたの心を超えて

思いは
かなたへ

光は
届かない

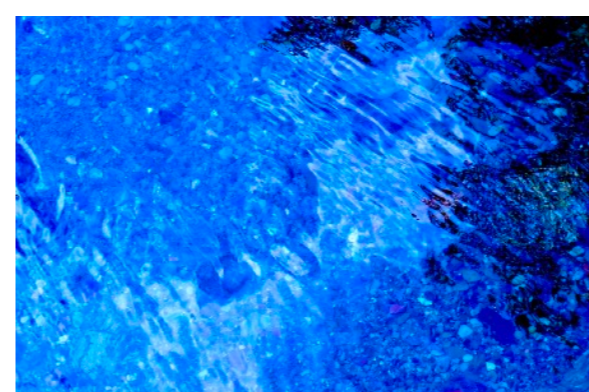
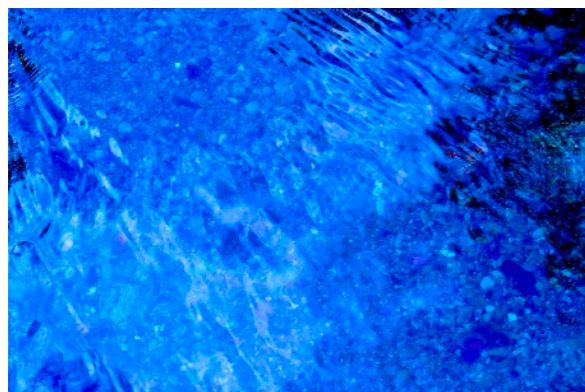
ぬばたまの夜を超えて

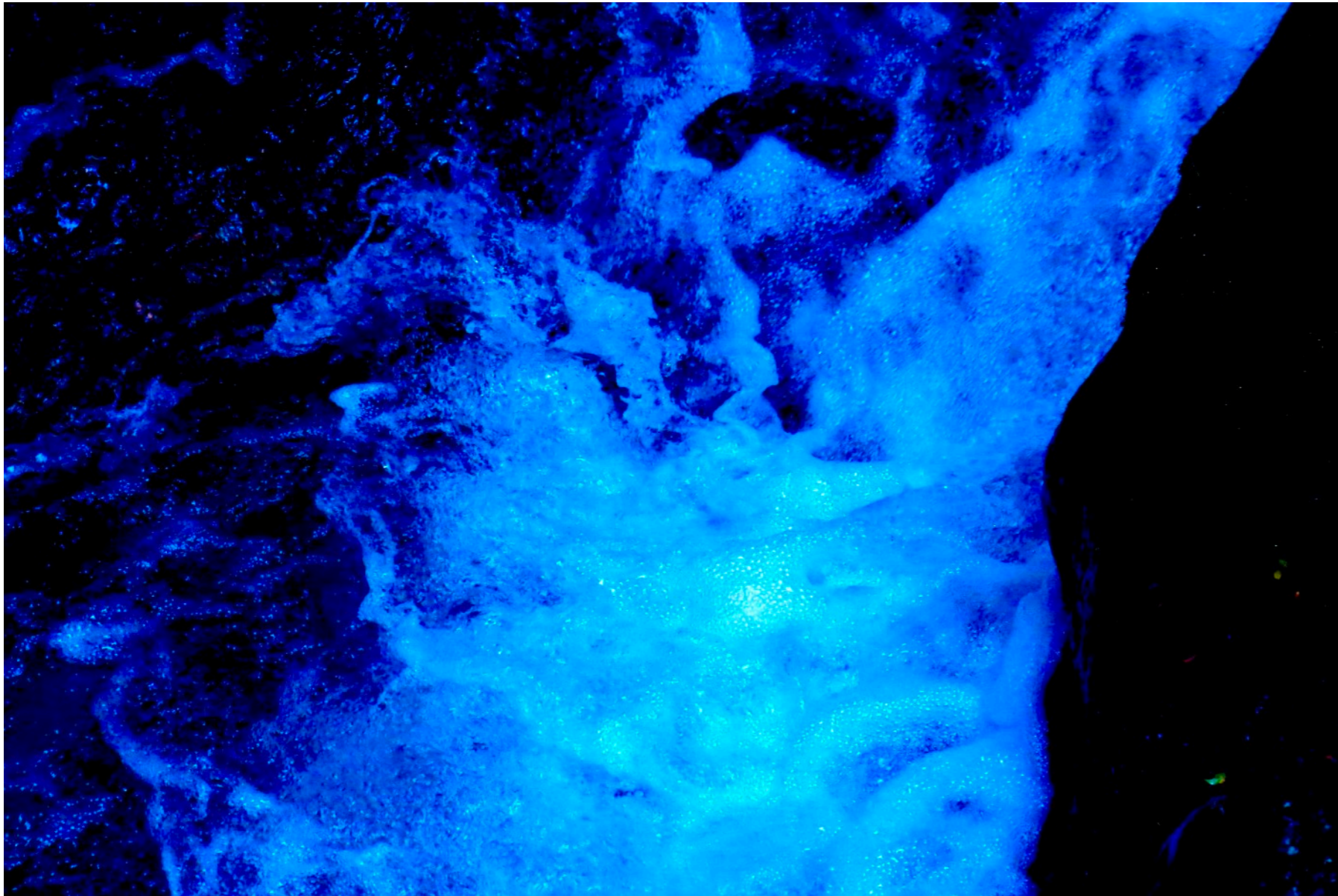
夢は
かなたへ

言葉に
できない

うつせみの命を超えて

祈りは
かなたへ





わからない
そこから
はじめる

それは
わたしでは
ないからだ

わかる
そこから
はじめるとき

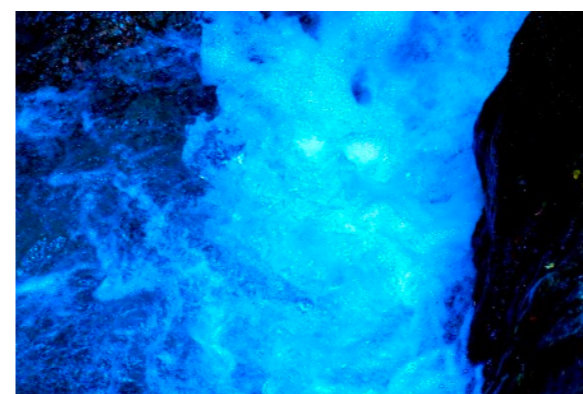
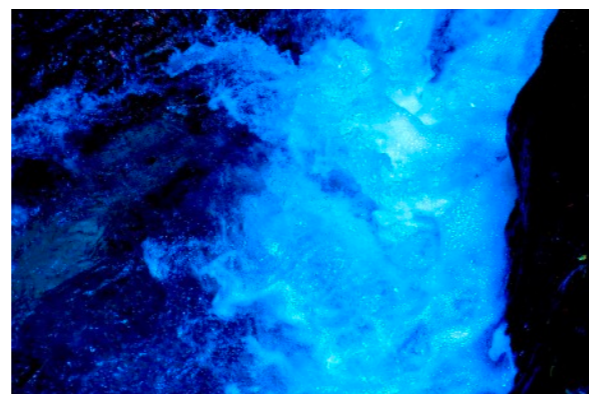
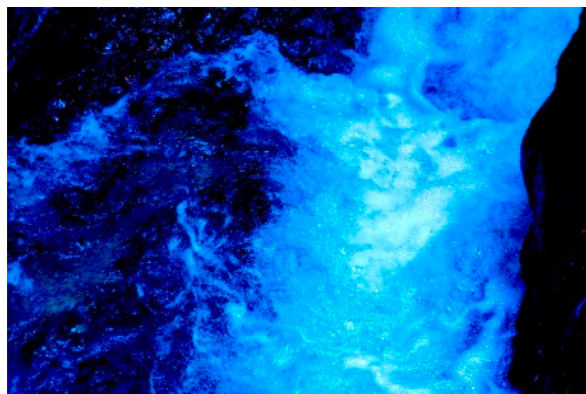
わたしは
わたしのまま
どこにもゆけない

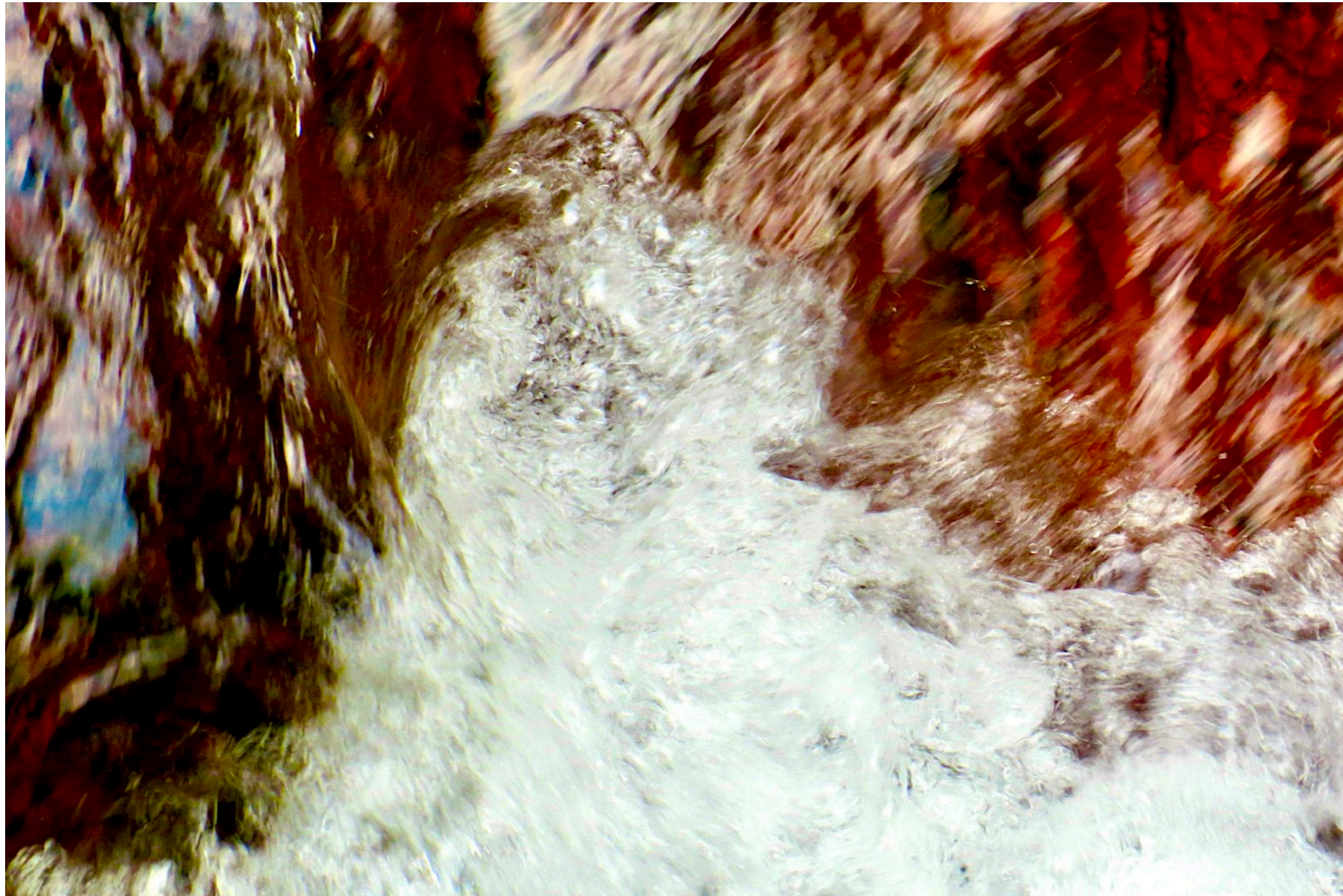
わたしは
みんなではない
みんなは
どこにもいない

わたしは
ふつうではない
ふつうは
どこにもない

わたしは
わからない

そこから
わたしは
わたしをこえてゆく





わたしの見ている
せかいは
現実だろうか

せかいが
いつのまにか
影になっていることに
気づいたとき

せかいを
取りもどすために
なにができるだろう

影は光がつくりだす
写し絵で
写し絵をつくっている
ほんとうのせかいを
探せばいいのだろうか

けれど
せかいを
影にしているのは
わたしなのかもしれない

せかいの
現実を見るために
わたしは
わたしじしんを
取りもどさねばならない

そのときはじめて
せかいのヴェールは剥がされ
ほんとうの顔が見えてくる



矛盾ばかりだと
生きられないけれど

矛盾するものを
捨ててしまうなら

その世界には
小さな場所が残るだけだろう

理解できないものばかりでは
辛くなるけれど

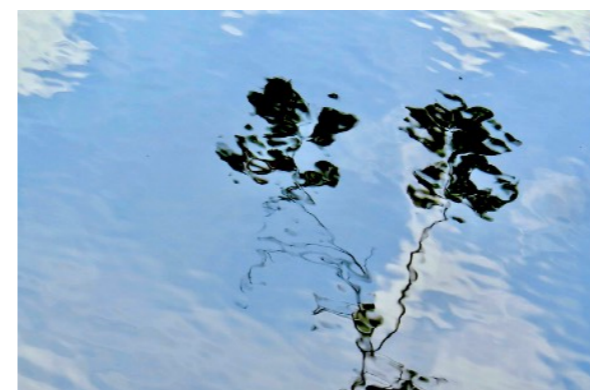
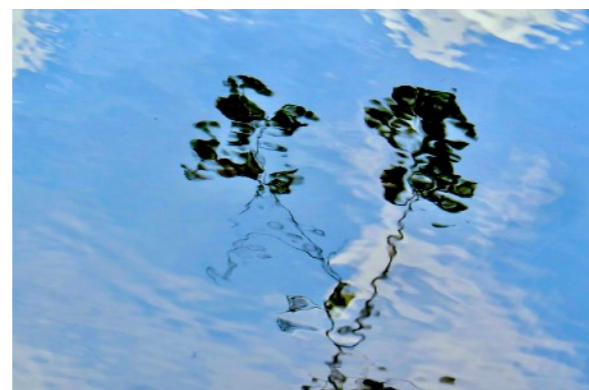
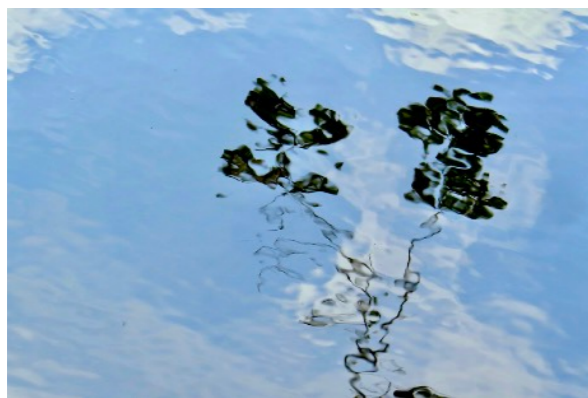
理解できないものを
捨ててしまうなら

その世界には
小さな場所が残るだけだろう

共感できないものばかりでは
疲れてしまうけれど

共感できないものを
捨ててしまうなら

その世界には
小さな場所が残るだけだろう





概念という
変わらないことを
生き甲斐にしている
頑固者は
問うことが苦手だ

概念を
スクエアな箱に
きれいに整理したあとは
概念はもう箱から出ることはない

決まった答えは
変えることができないと
信じているからだ

概念は
どこからやってきて
どのように育ってきたのか

そう問い直すことで
それがまたどのように移ろい
どこへと向かっていくのか

その謎とともに
航海をつづけてゆく
あくなき冒険者でありたい

寄せては返す波のように
答えは問いを生み
問いはまたあらたに
問いを生みつづける

変わることは変わらない
海に永遠の岸辺はないからだ
永遠とは問いつづける時間のことだから

